

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871200416		
法人名	有限会社梨花園		
事業所名	グループホーム梨花園(A棟)		
所在地	茨城県常陸太田市上土木内町382		
自己評価作成日	2021年12月20日	評価結果市町村受理日	2022年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0871200416-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭の延長をめざし、一人ひとりが安心して暮らせるように支援し、利用者様が楽しく笑顔で過ごせることができるようにきめ細かく取り組んでいる。コロナ禍で面会も制限させて頂いているが体調の変化がある時等、積極的に連絡し、ご家族に安心してもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有料老人ホームを運営する法人が開設した静かな集落の中にあるグループホームである。コロナ禍で地域との直接的な交流は難しいが、散歩中に挨拶を交わしたり、ホーム敷地に設置した自動販売機を利用する方がいるなど、地域との繋がりは続いている。面会に制限はあるが、利用者は落ちついた日常生活を送り続けている。職員は、理念を理解し、愛情をもって利用者に接しており、レクリエーションを充実させ、体力や気力が落ちることがないように支援している。***新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を斉唱し徹底をはかっている。	毎朝3つの理念を唱和し、職員へ配布もされている。職員は理念を暗記し、理念を意識した支援を行っている。職員からは、理念全てを大切なことと捉え、愛情をもって利用者のケアにあたっているとの話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にはコンビニもなく不便を感じていたがR3/12月に園庭に自動販売機を設置し、地域の方にも利用して頂いている。	以前は近所の方からお誘いを頂き、綺麗に咲いた菊の花を見に行くなどしていたが、現在はコロナ禍で、散歩中に合う方と挨拶を交わす程度になっている。近くの蕎麦屋さんに駐車場を貸したり、庭の自販機を利用する方がいたり、近所との付き合いは続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時に地域の方と挨拶し、触れ合うようにしている。認知症になっても支援することで普通に暮らすことができることを理解してもらっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2、3年はコロナ感染予防の為、運営推進会議を開催することはできませんでしたが資料を郵送にて送らせて頂いた。	コロナ禍で文書での開催となっており、写真付きの利用者状況やヒヤリハット報告等を運営推進委員に送っている。会議録も作成し、郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは連携を持ち情報交換することはできている。	市からコロナ関連やワクチン接種に関する情報等が適宜送られている。認定申請等で市役所に出向くこともあり、担当課と良好な関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修を実施し、常に代替的な方法を考え、やむを得ず身体拘束する時は家族から許可を得ている。	3ヶ月に1回、委員会を開催し、拘束の現状把握と課題について検討しており、議事録を作成して記録に残している。ベッド2点柵、車いすベルト使用の方がおり、軽減できるよう検討しながら、3ヶ月毎に家族の同意を得ている。職員全員が通信教育を受講し、毎月確認テストの回答を提出しており、身体拘束についても学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてしっかり職場内で研修し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を毎月実施し制度を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(入所時ケアマネージャー対応)十分な説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	園内に意見箱の設置、ご家族の面会時に意見や要望を伺い反映できるようにしている。	面会制限中であり、窓越しで面会できるよう支援している。「前回と同じ服を着ている、もっと持っているはず」との意見があり、着替えに対する配慮をしている。来所時に状況を説明して要望等を聞いているが、「お任せします」という言葉が多い。毎月、写真と個人の近況報告を載せた『梨花園だより』を送って様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、日々の現場で提案を取り入れている。	コロナ禍で定期的な職員会議は開催できていないが、申送りの徹底や、日常的なコミュニケーションで職員の意見を聞いている。週2回の入浴日に洗濯をしていたが、負担が大きくなるという職員の意見を受けて、翌日の業務とした。自粛生活が続いているが、協力的な職員関係が築けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場にするため、管理者と職員は常に話し合いができるような雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修により、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にグループホーム協議会を開催し、研修会を通じてサービスの向上に努めている。本年度はコロナ禍のためグループホーム協議会を開催することは出来なかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆったりとした時間を作り本人や家族から思いや願いを伺い常に様子を観察し寄り添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来園時、最近の様子を伝え安心して頂き要望もじっくり伺い家族との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望も伺い、必要としている支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を見極め、日常生活で出来ることをして頂きお互いが支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が面会に来た時はコロナ禍のため玄関のガラス越しで面会して頂き、面会の様子を写真に残すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回梨花園だよりを送り、最近の様子を知って頂き、安心しよりよい関係が続くよう支援している。	毎日、新聞を読む習慣がある方がおり、他の方も読むようになった。選挙の投票には行っていないが、選挙カーが通ると選挙の話題があがる。チラシをみて恵方巻が食べたいと話したり、ファッション通販雑誌も良く見る。サイズや状態が変わり、洋服の買換えを依頼されることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が良好な関係に過ごせるように職員が間に入り配慮している。利用者が楽しく過ごせるように時々席替えをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	告別式にも参列している。利用者様が作った作品、写真等を手渡したり送ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から一人ひとりの要望や思いを伺い把握するように努めている。その人らしい生活を送れるように家族にも伺っている。	利用者は自分の思いを言えており、職員は訴えや日常の会話から把握するようにしているが、アイコンタクトで訴えてくる利用者もいる。大きな声を出す利用者があるが、職員が様子を見ながら声かけをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族から生活習慣、趣味、嗜好、生活歴等できるだけ詳しく伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間を通して心身状態、食欲状態、排泄状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人が当たり前の生活ができるよう本人家族に要望を伺い、ケアカンファレンスを開いて多くの人々の意見やアイデアを出してもらい現状に即した介護計画を作成する。	担当者がアセスメントをして担当者会議を開き、計画作成者がプランを作成している。介護支援経過に日々の記録、介護内容、観察事項等を記載し、職員全体で情報を共有している。半年ごとにモニタリングを行い、次の計画につないでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの実践や日々の様子等を具体的に介護記録に記載し、情報を共有し実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行政の代行、入退院、通院、買い物等同行等必要時の対応をしている。又、医院と連携を取り往診等にも来て頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、ボランティア、消防署、水質検査業者等の協力を得ながら安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院から月1度の定期的な往診を受けている。又、急変時には検査や受診、夜間時の急変時には往診にも来てくれている。	協力医院からの往診を受け、薬が変わるなどの変化があった時に家族に報告し、記録に残している。歯科、皮膚科、眼科など専門医受診は家族が付き添っている。急変時は職員同行で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理はバイタル測定又は看護師と連携を取りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医院が定期的に往診して下さったり、必要時すぐに往診してくれる。予防接種も出張して下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については家族と話し合い施設で出来る事、出来ない事を明確にし、主治医と相談して方針を共有し今後に向けた支援に取り組んでいる。	重度化の指針を作成し、利用時に家族に説明をしている。看取りを行っているが、持病があり、病院のほうが安心できるという場合は、主治医と相談の上、入院を勧めることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部、内部研修を通して又、消防署等の協力を得ながら実施、力をつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に避難誘導を実施し万が一に対処できるようにしている。	避難訓練では、利用者のADLに配慮し、寝たきりの方の移送の仕方を練習して、毛布使用がベストと判断した。非常口の小さい段差を気にかけてながら訓練に臨んでいる。夜間担当職員に、スプリンクラーや緊急放送について個別指導した。日常的に緊急避難先の別館まで歩くようにしている。食料等は備蓄しており、発電機購入も検討していた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシーについて又、言葉かけや対応については内部研修を行い徹底している。	通信教育の接遇研修を受講し、上からの態度にならないよう、言葉遣いに配慮している。声のトーンに気を付けており、気になった場合にはお互い注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定し生活出来るよう働きかけている。(洋服、髪形、飲み物の選択等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく本人希望に添った生活を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室には鏡、くし等の美容品を備えている。出張理容を利用したり本人のかかりつけ美容室へ家族に連れて行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回カレーの日を設けて、スタッフも一緒に食事をしている。食事中には静かな音楽を流したりして食事を楽しんでもらっている。	食材業者の献立と食材を利用しているが、利用者の希望を聞いて手作りの日を設定し、カレーや芋煮などを一緒に作っている。パン食も取り入れている。誕生日には花とプレゼントを用意し、刺身を配達してもらった時は利用者がとても喜んだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、形態は一人ひとり違っているの で食事量と水分量もチェックし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯は就寝前に預かり洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかむため排泄表をつけ排泄の失敗のないよう誘導している。	昼は布パンやリハパンを使用し、トイレで排泄できるよう表を活用して声かけており、失禁も少なくなっている。夜間のポータブルトイレ使用は、センサーを付けるなどして安全な排泄を支援している。便秘に注意しているが、なってしまった時には浣腸をすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等にできるだけ身体を動かすようにしている。排泄表をチェックし3日以上排泄がない時はその方にあつた下剤を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴は火、金曜日の週2回だが楽しんで入浴して頂けるように入浴剤等工夫している。	入浴表を作成し、レクリエーション等の時間を作るために週2回の午前中に入浴している。入浴の順番等は様子を見て決めている。入浴剤を使用し、保湿効果で皮膚トラブルが減っている。浴槽に入れない方は、シャワーやかけ湯で体を温めている。足拭きマットは個別に交換し、感染予防に配慮している。着替えは一人ずつ袋に入れて準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子を見ながら居室に誘導し安心して休息できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的について理解しており、服薬時の確認、症状の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割を習慣化して張り合いや喜びのある生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は季節のイベント等、外出の機会をとれるように努めている。現在は感染予防のため戸外の外出は控えている。	コロナ禍なので、近所の散歩や系列施設の東屋でお茶や花を楽しんでいる。運動不足解消の為、レクリエーション実施記録を廊下に掲示して記録している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は預からないことになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話要望がある場合は取次ぎ安心して頂き手紙、FAXで送る時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるよう花を飾ったりフロア内の掲示物も毎月工夫している。又、カレンダーも月日がわかるように工夫している。	広い玄関には花の鉢が置かれ、明るい雰囲気を感じさせている。ホールや廊下には、月毎に作る利用者の作品を飾り、季節感を出している。訪問調査当日は節分前日で、いくつもの鬼の面が飾られていた。日めくりカレンダーで日付を確認できる。トイレは車いすでも動き易い広さである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関フロアからは外の景色が見え自由に行けるように見守りをしている。又、新聞を置き自由に読んでもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅と同じように過ごして頂く為に使い慣れた家具、寝具類を使用している。 家族写真や作品等を飾ったりしている。	ベッドの他、タンスや椅子、テレビ、鏡などがあり、写真や作品が飾られている。家族からの絵手紙や亡くなった配偶者の写真、家族の写真などが思い思いに飾られている。職員が毎年手作りする誕生日の色紙には写真が貼られ、その方の変化を見ることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は安全に配慮し、一人ひとりが自立し生活出来るように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム梨花園

目標達成計画

作成年月日 : 2022年3月31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時、電気が止まってしまった時の備えが出来ていない。極寒、極暑の時の対応が出来ていない。	極寒時、暖がとれるよう、又極暑の時、暑さをしのげるよう発電機を備えたい。	近頃災害(地震等)が多い。真冬の寒さ、真夏の暑さに備えられるよう購入する。どんなものがあるか探している最中です。	3ヶ月
2	13	1年間の研修項目をずっと継続して勉強している。しかしよい内容の研修でも職員同志で発表したり意見交換できなかった。	研修内容を職員間で額を合わせて討議、意見交換できるような状況になることを待ち望んでいる。	目標が達成できるよう、個々の研修内容を職員1人ひとりが研鑽したことを忘れないでいてもらうよう声掛けをする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。